



「子どもは、大人の“日常”から学ぶ」

八尾市立志紀小学校
校長 山下 卓也

師走を迎え、朝夕の冷え込みに本格的な冬の訪れを感じる頃となりました。長かった二学期も、いよいよ終わりを迎えようとしています。行事や学習、友達との関わりなど、子どもたちは一日一日を重ねながら、多くの経験を積み、心も体も大きく成長してきました。

二学期を振り返ると、子どもたちが力を伸ばした場面は数え切れません。できなかったことに挑戦する姿、友達と意見を交わしながら考えを深める姿、行事に向けて粘り強く取り組む姿。そうした一つ一つの姿に、日々の学びの積み重ねを感じています。

さて、12月7日に行われました本校150周年記念式典には、多くの皆様にご臨席・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。地域の方々、保護者の皆様、そしてこれまで学校を支えてくださった多くの方の思いに触れ、子どもたちは「志紀小学校はいろいろな人に大切にされている素敵な学校」ということを、心で感じ取ったことと思います。あの式典の温かな空気は、きっと子どもたちの記憶に長く残ることでしょう。

私たち大人は、子どもに対して「こうしなさい」「これは大切だ」と、言葉で伝える場面が多くあります。しかし、子どもたちが本当によく見ているのは、私たちの日常の姿ではないでしょうか。挨拶を交わす姿、約束を守る姿、困っている人に手を差し伸べる姿、失敗したときにどう向き合うか。そうした何気ない行動の積み重ねが、子どもたちの学びになっていきます。

今の時代、子どもたちは多くの情報に囲まれて生活しています。だからこそ、身近にいる大人が、安心できる行動や言葉を示すことの意味は、以前にも増して大きくなっていると感じます。学校では教職員一同、子どもたちに**向き合う姿勢**そのものが学びになることを意識し、日々の教育活動に取り組んでいます。

まもなく始まる冬休みは、学校の時間割から少し離れ、家庭で過ごす時間が増える貴重な期間です。だからこそ、この冬休みを「特別なことをする時間」ではなく、「**日常と一緒に味わう時間**」として大切にいただけたらと思います。

例えば、朝の挨拶をきちんと交わすこと、食事の前後に自然と「いただきます」や「ありがとう」が行き交うこと、靴のかかとを揃えてから靴を脱ぐこと、年末の片付けを親子で一緒に行うこと等、どれも特別な準備が必要なものではありませんが、子どもにとっては大切な学びの場面になります。大人が黙々と取り組む姿を、子どもはよく見ています。

また、年末年始は一年を振り返り、新しい年を迎える節目の時期でもあります。ぜひ、短い時間でも構いませんので、「この一年で頑張ったこと」「楽しかったこと」「来年挑戦してみたいこと」などを、親子で言葉にして共有する時間をもってみてください。大人が自分自身の思いを素直に語る姿は、子どもにとって安心感につながり、自分の思いを言葉にする力を育てます。

冬休み中は、生活のリズムが乱れがちになりますが、起きる時間や寝る時間を意識し、体調管理に努めることも大切です。その際も、「早く寝なさい」と言葉で伝えるだけでなく、**大人自身が生活リズムを整える姿**を見せることが、子どもたちの**手本**になります。

子どもたちは、言葉以上に大人の日常の姿から多くを学んでいます。家庭で過ごす時間が長くなるこの冬休みこそ、親子で同じ時間を共有し同じ空気を感じながら、穏やかな日々を重ねていただければと思います

【3学期の主な行事】

- 1月 8日(木) 始業式
- 1月13日(火) 給食開始
- 1月21日(水) 研究授業のため6-1以外13:20下校
- 2月12日(木) 2, 4, 6年授業参観・懇談会
- 2月19日(木) 1, 3, 5年授業参観・懇談会 6年お別れ遠足
給食試食会
- 3月18日(水) 卒業式
- 3月24日(火) 修了式

《冬休みの過ごし方》

- ・元気に外で遊ぶのは大事ですが、公園でのボール遊び、火遊び等、周りの人に迷惑をかける遊びはしないこと。
 - ・校区外、ゲームセンター等は子どもだけで行ってはいけません。
 - ・お手伝いも含め、計画を立てて過ごしましょう。
- 夏休みと比べると短い休みですが、目標を決めて有意義な冬休みにしましょう。